



親密なパートナーからの暴力を防止する支援についての限定的根拠と限定的効果



集中的支援によって、家庭内暴力のシェルター/避難所に保護されている女性たちの日常生活は短期的にみると好転し、身体的暴力は1年から2年でみると減少する。

このレビューのねらいは何か？

このキャンベル系統的レビューは、親密な関係にあるパートナーからの暴力と女性の福祉に対する支援的介入の有効性について評価する。本レビューでは、13の調査から得られた知見を要約している。

集中的支援によって、家庭内暴力のシェルターや避難所に保護されている女性の日常生活は好転し、身体的虐待は減少する。しかし集中的支援が、性的、心理的、あるいはあらゆる虐待を抑制するのか、女性の精神的健康に役立つかについての明確な根拠はない。短期支援の有効性は明らかではない。

このレビューは何についてのものか？

パートナーからの暴力あるいは家庭内暴力は、身体的、心理的、性的虐待、脅迫、経済的圧迫、傷害、長期にわたる身体的及び心理的健康の諸問題を内包している。“支援（Advocacy）”の訓練を受けた人たちによる活動的支援は、そうした女性たちが安全策を講じ、虐待とうまく対処し、地域社会から援助を受けることを手助けする。

支援は、医療サービスからの照会を受けて単独でなされることもあるし、複数の機関の一部、ことによると複数の機関が介入することもある。また地域社会やシェルターで行われること、出産や他の医療サービスの一環として行われることがある。支援期間は、1時間未満から80時間までと様々である。

支援は、虐待を防止することに尽力する。また、非公開のカウンセリングを行い、女性たちが自身の立場を改善し、安全策を講じることや様々なサービスを受ける機会を増やす手助けをする。

レビューから得られた主要な知見は何か？どのような調査が含まれているのか？

本レビューは13の臨床調査から得られた知見を要約している。臨床調査では、ケアを全く受けなかった、あるいは一般的なケアを受けた1,241人の被虐待経験のある女性に対する支援を比較している。多くの調査は少なくとも1年間、女性たちを追跡している。

支援によって、親密なパートナーからの暴力が減少し、幸福感が高められるか？

身体的虐待：短期支援は1年後に、何ら効果がなかったことを2つの医療調査と1つの地域調査は明らかにしている。



このレビューはどれくらい新しいのか？

このレビューの調査は2015年4月に更新され、2016年1月に公開されている。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画は、系統的レビューを公表する、国際的、任意の研究ネットワークである。我々は、社会科学および行動科学の研究で得られた知見を概観し、その質を評価する。我々の目標は、人々がより良い選択とより良い政策決定ができるよう、援助することである。

この要約について

この要約は、Howard White (Campbell Collaboration)によって執筆されたものであり、Campbell Systematic Review 2016:02 'Advocacy interventions to reduce or eliminate violence and promote the physical and psychosocial well-being of women who experience intimate partner abuse'に基づいている。系統的レビューは、Carol Rivas, Jean Ramsay, Laura Sadowski, Leslie L Davidson, Danielle Dunne, Sandra Eldridge, Kelsey Hegarty, Angela Taft, Gene Feder (DOI: 10.4073/csr.2016.2)によるものである。要約の原案は、Anne Mellbye (R-BUP)、要約の校正、作成は、Tanya Kristiansen (Campbell Collaboration)が行った。

その一方で、短期支援が、軽度の虐待を減少させたことを1つの妊婦管理調査は明らかにしている。他の妊婦管理調査は短期支援の直後に虐待が克服されたことを明らかにしているが、女性は鬱の治療を受けており、そのことが結果に影響した可能性がある。2つの調査では、集中的支援が2年以内には身体的虐待を減少させるという乏しい根拠を示している。

性的虐待は、4つの調査で何ら効果がなかったことが明らかにされている。

心理的虐待：1つの妊婦管理調査は支援後12カ月の時点で、心理的虐待が克服されたことを明らかにしている。

鬱：短期支援は、医療サービスにかかっている被虐待女性と妊婦の鬱を支援直後に改善した。集中的支援によって、シェルターで保護されている女性の鬱が12カ月と24カ月の時点で改善されることはなかった。偏りのない調査から得られた結果の多くは、質的には中～低程度の根拠を示している。

人生の質：短期支援の3例については、人生の質に何らよい変化がみられていない。家庭内暴力シェルターと避難所での2つの調査では、集中的支援の効果が乏しいことを示している。また初期診療における調査では、支援直後に日常の仕事に取り組む動機を高めたことを明らかにしている。

結果から分かったことは何か？

集中的支援によって、家庭内暴力シェルターや避難所で保護されている女性たちの日常生活が短期間でみると改善され、支援実施後の1年から2年以内でみると身体的虐待が減少する。集中的支援によって性的、心理的、ないしはあらゆる虐待が克服され、あるいは女性の精神状態が好転するといった明確な根拠は存在しない。短期支援が、特に妊婦やそれほど深刻でない虐待被害を受けた女性の精神状態を短期間で改善し、虐待が減少するとしても、短期支援の有効性については明確でない。

本レビューで要約した調査のいくつかは、調査計画が脆弱なため、調査内容が偏っている可能性がある。支援の仕方、効果測定の方法、追跡調査の期間が様々であるため、相互に一貫性がなく、得られた結果を統合するのは困難である。そのため、どの程度、あるいはどのタイプの支援による介入が女性にとって有益なのかを明確にすることが困難である。